

## 復興博覧会の軌跡 ～「乃村工藝社 博覧会資料 COLLECTION」より～

○ 石川敦子（株乃村工藝社）  
小島敏明（株乃村工藝社）

キーワード：復興、再生、活力

### 1. 目的

4 枚のプレートの衝突部にある日本列島は、世界有数の地震多発地帯でマグニチュード 8 クラスの巨大地震が記録に残っている。大正 12 年（1923 年）の海溝型地震・関東大震災では、神奈川県を中心に死者・行方不明者 10 万 5 千余の日本災害史上最大級の被害を与えた。

一方、第二次世界大戦で総力戦を経験した日本は 66 都市が大空襲で焦土と化し、軍人戦死者 230 万人、民間犠牲者 80 万人を数えた。

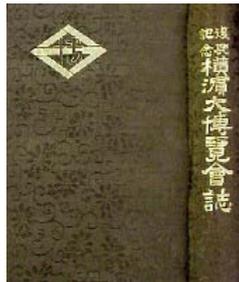
度重なる自然災害や人災から力強く復興を果たしてきた日本、過去に開催された復興博覧会の実態を明らかにし、ユネスコが 2021 年に東北で開催を目指す国際的な文化博覧会など、開催が期待される東北復興博覧会の開催に向けた礎とする。

### 2. 方法

「乃村工藝社 博覧会資料 COLLECTION」約 15,000 点から復興をキーワードに開催された博覧会の会誌（公式記録）・ポスター・パンフレット・絵葉書・記念品などを調査し、博覧会が開催された目的、内容、開催効果を分析する。



昭和 10 年【復興記念横浜大博覧会】



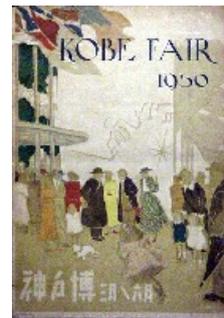
昭和 23 年【伊勢志摩国立公園観光と平和博覧会】



昭和 23 年【復興大博覧会】



昭和 24 年【福島県産業復興博覧会】



昭和 25 年【神戸博覧会】

### 3. 結果

「乃村工藝社 博覧会資料 COLLECTION」には【復興記念横浜大博覧会】から【新潟防衛大博覧会】まで、復興をキーワードに開催された博覧会が 16 件あり、時代や地域の特徴を備えながら、博覧会が都市再興のステップになっている。

昭和 10 年、大正 12 年の関東大震災から立ち直った横浜市が開催した【復興記念横浜大博覧会】、  
昭和 22 年、百貨店の博覧会イベントとして戦後初登場した大阪高島屋での【新日本観光博覧会】、  
昭和 23 年、観光復興を促進する為開催された【伊勢志摩国立公園観光と平和博覧会】、  
昭和 23 年、大阪復興の大局からみて都市計画に結びつく場所・夕陽丘での【復興大博覧会】、  
昭和 24 年、昭和 21 年の南海大地震からの立ち直った姿を見せる為の【観光高松大博覧会】、  
昭和 24 年、東北に向って万丈の気を吐き地域の活性化に貢献した【福島県産業復興博覧会】、  
昭和 25 年、市街の約 7 割を戦災で焼失した神戸での【日本貿易産業博覧会（神戸博）】、  
昭和 26 年、東京都が保護している戦災孤児 300 人が招かれた【ユネスコ子ども博覧会】  
昭和 27 年、戦災と 3 年後の大地震というダブルパンチから再起をかけた【福井復興博覧会】  
昭和 27 年、原爆が投下された長崎での【長崎復興平和博覧会】  
昭和 29 年、中部地方の商工文化都市の復興した姿を紹介する【豊橋産業文化大博覧会】  
昭和 29 年、日本の復興は人間の魂の復興からとの運動による【お伊勢博覧会】  
昭和 29 年、全市が焼失した富山市の電源県としての発展を紹介した【富山産業大博覧会】  
昭和 33 年、焦土と化した広島を平和都市としての復興ぶりを示した【広島復興大博覧会】  
昭和 33 年、【南国高知総合博覧会（南国博）】  
昭和 41 年、新潟震災復興記念防衛大博覧会の【新潟防衛大博覧会】

### 4. 考察

日本国内で最初に開催された博覧会は、明治 4 年秋に開催された【京都博覧会】である。明治維新による東京遷都で千余年の首都を誇った京都が火の消えたような都となった。この沈滞ムードを一掃して活性化を図ろうと三井八郎右衛門(高福)・小野善助(包賢)・熊谷直孝ら京都の豪商 3 人が会主となって開催された博覧会である。日本初の博覧会も都市の復興という意味合いを持っていたのである。災害による都市機能の崩壊や被災者の気力喪失という状況の中で、ゼロから立ち上がって行く人々の努力が形になって見えてきた時、祝祭の意味も込めて「復興」をキーワードとした博覧会が開催されてきたのである。

### 5. 結論

今年 3 月 11 日に発生した東日本大地震は、マグニチュード 9.0 を記録、地震と大津波により被災地は東北 3 県と関東 2 県に及び、死者・行方不明者が 2 万人を超える大災害となった。今後のエネルギー問題に大きな布石となった福島原発の事故は深刻である。

『インフラ整備』『支援』『集客』という意味から、一過性ではない博覧会の開催は有効である。